

第1回 接合科学研究所 定例記者発表 を開催しました

事務部 庶務係 大石 萌可

令和7年2月27日に大阪大学中之島センターにて、接合科学研究所 定例記者発表を開催しました。

第1回目となる今回は、藤井英俊所長の挨拶の後、桐原聡秀教授が「連続露光方式で世界最大級の超大型3Dプリンター造形装置を開発」をテーマに発表を行いました。この装置は、桐原教授の研究成果をもとに2017年に大阪大学ベンチャーキャピタルと株式会社写真科学が共同出資で設立した「株式会社エスケーフライン」が開発したもので、桐原教授は現在も技術顧問や学術相談をとおして技術開発に取り組んでいます。

3Dプリンター造形技術の1つである露光式光造形は、プロジェクタを用いて2次元パターンを投影し3次元パーツを造形する技術であり、他の3Dプリンター技術と比較し、利用する微粒子が極めて細かいナノ素材が利用されています。造形物は、粉体粒子を結合され造られているため、滑らかな部品表面や緻密な部分組織を実現することができます。

今回、新たに開発した「世界最大の連続露光式の長大型光造形装置」では、高画素数のプロジェクタを水平方向に高速移動させることにより、大型構造物を精密かつ高速に3Dプリントすることが可能になりました。本技術は産業実装に即応できる実用部品も製造可能であり、大型電機デバイスの部品やロケットエンジン用部品、医療用の生体インプラントなどの造形に利用することができます。

宇宙分野への将来展開に向けて準備を進めている接合科学研究所にとっても、月面都市開発事業の推進に大きく貢献できる技術として期待しています。
[\(発表の概要はこちら\)](#)

出席された記者からは多くの質問が活発になされ、充実した定例記者発表となりました。

今後も定期的な記者発表の開催を行い、溶接・接合科学の研究成果を積極的に発信することに取り組んでまいります。次回は9月頃に開催を予定しております。



藤井英俊所長の挨拶の様子



桐原聡秀教授



発表の様子